

家庭教育部

教会の高齢者対応についての アンケート報告



日本同盟基督教団家庭教育部

目 次

【はじめに】	3
I. 教会の高齢化の現状【1、14】	5
II. 教会内の対応ハード面【3～7】	7
III. 教会内の対応ソフト面【2、8～11、15】	11
IV. 教会の外への対応【12、13】	18
V. 事例【16、17】	20
VI. 高齢者対応のネットワークについて【18、19】	23
VII. 意見【20、21】	25
【総括】	27

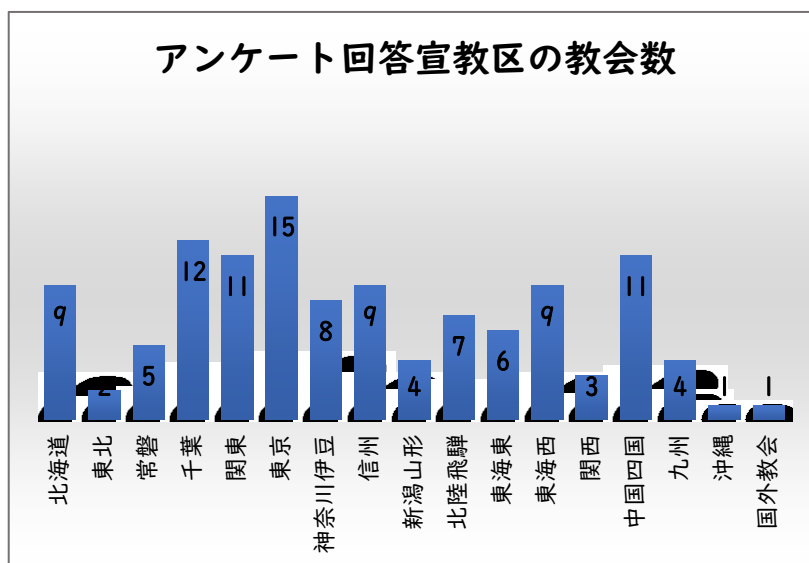
【 】内の数字はアンケート設問番号

【はじめに】

日本で高齢化が課題になったのは1970年でした。65歳以上の人口が7%を超えた「高齢化社会」となり、その24年後には「高齢社会」（人口の14%以上）、そして2010年には「超高齢社会」（人口の21%以上）となっています。28.6%という2020年の日本の高齢化率は、世界主要国トップです。この社会にある教会の高齢化も当然の状況でしょう。

家庭教育部ではライフステージに合わせてミニストーリーを展開していますが、より具体的な「親子・介護シルバーミニストーリー」の検討のために、教会の高齢化における現状と課題を把握したいとアンケートを実施しました。国連や世界保健機構では65歳を高齢者と位置付けていますが、このアンケートでは実態を把握する設問は75歳を目安にしました。年代別人口に占める要支援・要介護認定者の割合が倍増（70～74歳5.8%、75～79歳12.1%、80～84才25.8%、85歳以上59.8%。厚労省「介護給付費等実態統計月報2023年1月」と総務省「人口推計月報2023年1月」を元に公益財団法人生命保険文化センター作成）することから、現実的な対応が必要になると考えたからです。具体的な取り組みの設問では、特に年齢は定めず広く捉えて回答していただきました。

アンケートを実施したのは2022年8月～2023年2月、123教会から回答を得ることができました。アンケートに答えることで教会でも現状確認する機会となることを願い、役員会で話し合って答えていただきました。21の設問に時間を取って答えてくださり、ありがとうございました。データをまとめるだけでなく、記されたご意見もまとめつつ掲載しています。諸教会の対応事例が参考や励ましになることを願っています。

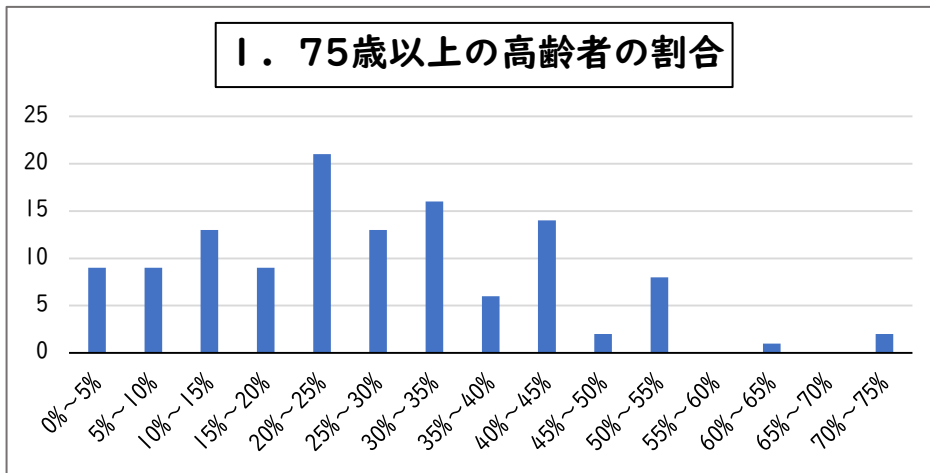


【アンケート設問】

1. 教会員のうち75歳以上の高齢者はおよそ何%おられますか。(記入例：約70%)
2. 教会で高齢者対応の担当者、担当部門がありますか？
・担当者がいる・担当者がいない・牧師が担当・役員会が対応・教会全体で対応・担当部門が対応・その他
3. 教会のバリアフリー（ユニバーサル）化についてお尋ねします。バリアフリー化している場合、該当するものにチェックをつけてください。
・スロープ・車椅子・歩行器・手すり・会堂土足化・音響設備（スマートスピーカー・FM トランスミッターなどの設置）・肘付き高齢者用椅子・長時間座れるような椅子・昇降機の設置・大きな字の聖書や週報など印刷物・エレベーターの設置・その他
4. バリアフリー化していない場合、該当するものにチェックをつけてください。
・今のところ該当者がいない・教会のスペースの問題でできない・そのための予算が取れない・その他
5. 高齢者の礼拝、諸集会への出席ために送迎をしていますか？
・要望があればしている・毎回定期で送迎している・信徒間で行っている・介護タクシーなど外部に委託している・今のところ必要がない・必要はあるができていない
6. 定期的に送迎をしている場合、また外部へタクシーを委託している場合、費用負担はどのようにしていますか？
・教会が全額負担・本人のみが負担・教会と本人が折半・プール制にして距離の違いに関係なく一律本人負担・その他
7. 高齢者の礼拝、諸集会への出席のための送迎で、良かった点、あるいは課題などがありましたらお書きください。
8. 高齢者のための配慮やプログラムがありますか。あるとすれば、どのようなものですか。以下、該当するものにチェックをつけてください。
居場所づくり：（ ）定期で（ ）不定期に・奉仕のとき・どんな奉仕をしてもらっていますか・礼拝のとき・交わりのとき・学びのとき・伝道プログラムのとき・高齢者への奉仕者養成・その他
9. 高齢者の日常生活のためにどのようなことを配慮していますか。以下、該当するものにチェックをつけてください。
・生活支援（見守り、話し相手、安否確認、災害時に備えた連絡網、通院や買い物の付き添い、役所などへの手続き代行、郵送物の確認）・ちょっとした生活支援（カーテンや電球などの取替、家電や携帯電話などの取扱説明、家のちょっとしたお手伝いなど）を実現するための教会内組織（ある・ない）・教会内に福祉施設（ある・ない）・教会内に会員制の相互扶助のしくみがある場合（無料・有料）・公的サービスへの橋渡しをしている・その他
10. 以下の生活課題について、高齢の教会員から具体的にどんな相談や必要がありますか。該当するものにチェックをつけてください。(差し支えなければ、これまで受けた相談内容を「その他」のところに書ける範囲でお書きください)
・介護に関すること・健康に関すること(通院・入院・手術など)・経済に関すること・家族に関すること・住居に関すること・孤独に関すること・身寄りがいないこと・教会生活に関すること・その他
11. 上記のような生活課題を抱えた教会員の問題を解決するためにどんなことを行なっていますか？下記に該当するものにチェックをつけてください。
・福祉行政との連携・教会員の福祉プロの活用・介護保険等の制度の活用(手続きを家族、信徒、役員、牧師が行っている)・緊急時対応のための経済的基金を教会に設置・身寄りのない高齢者の葬儀の備え・福祉に重荷を持つ教会員に教会専属福祉委員としての奉仕(交通費程度は支給)・成年後見制度の活用(手続きを信徒、役員牧師が行っている)・その他
12. 教会として地域の高齢者のために、すでに実施しているものはありますか。該当するものにチェックをつけてください。
・敬老お祝い会などを企画して地域の高齢者をお招きする・教会に平日、気軽に立ち寄れる居場所づくりなどを設ける・地域包括支援センターや民生委員、社会福祉協議会等と連携して、会堂で体操教室や交流の場、認知症の方のためのカフェなどを実施する・地域の社会福祉協議会や自治会が行う福祉行事に参加する・その他
13. 教会として地域の高齢者のために、もしもできることがあるとしたらどんなことでしょうか。該当するものにチェックをつけてください。
・敬老お祝い会などを企画して地域の高齢者をお招きする・教会に平日、気軽に立ち寄れる居場所づくりなどを設ける・地域包括支援センターや民生委員、社会福祉協議会等と連携して、会堂で体操教室や交流の場、認知症の方のためのカフェなどを実施する・地域の社会福祉協議会や自治会が行う福祉行事に参加する・その他
14. 教会に75歳以上の高齢者で一人暮らしの方は何人ぐらいいますか。
15. 高齢者で一人暮らしの方(75歳以上)にどのような対応をしていますか。
16. 教会としてこれまで行なってきた高齢者対応で、良かったことはどのようなことですか？
17. またあまり効果的でなかったことがありますか。それはどんなことですか？
18. 教会の高齢者対応で、実際に問題に直面したときに相談できるところとして、どのようなネットワークがあると良いと思いますか。ご自由にお書きください。
19. 介護関係者など相談窓口として人材を諸教会に紹介できる方がおられますか？
・部門：医療関係・介護関係・福祉関係・職種：医師・看護師・保健師・介護福祉士・ケアマネージャー・社会福祉士・精神保健福祉士・その他
20. 今後、家庭教育部では高齢者に関するセミナーなどを検討していますが、どのようなセミナー内容が良いでしょうか。良いと思われるものにチェックをつけてください。また、他のテーマがありましたら、お書きください。
・自分が介護されるときに備える・自分が介護する側になるときに備える・家族の介護の実際・教会と介護・健康管理・認知症予防・その他
21. その他ご意見などありましたらご自由にお書きください。

I. 教会の高齢化の現状【1、14】

1. 教会員のうち75歳以上の高齢者はおよそ何%おられますか。(記入例：約70%) 123件



分析とコメント

まず教会員のうち75歳以上の高齢者の割合を尋ねたところ、上位は20%~25%程度の教会が21教会、30%~35%の教会が16教会、40%~45%が14教会との回答結果となった。また70%~75%の教会が2教会あった。

総務省統計局の2022年9月15日現在の推計によると、いわゆる「団塊の世代」(1947年~1949年生まれ)が2022年から75歳を迎え始めたことによる総人口に占める75歳以上人口の割合が初めて15%を超えたと報告されている。

今回のアンケート結果では、日本同盟教団の教会における75歳以上の高齢者数の割合が、回答数が123件と限られてはいるが、15%以上の割合の教会が75%、20%以上の教会が67%と一般社会よりも高齢化が進んでいることが分かった。

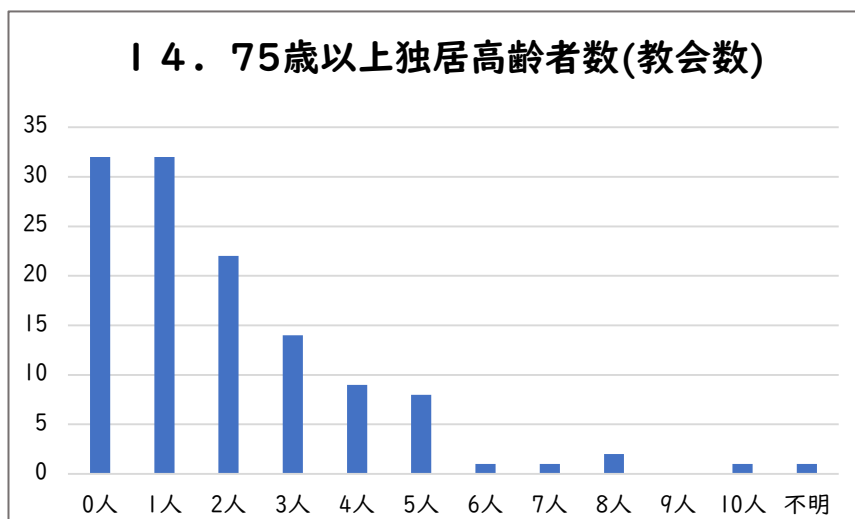
(参照:表1 総務省統計局 <https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1321.html> より)

表1 年齢3区分別人口及び割合(2021年、2022年) - 9月15日現在 (2022年)

区分	総人口	15歳未満	15~64歳	65歳以上	うち							
					70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	90歳以上	95歳以上	100歳以上	
2022年												
人口(万人)												
男女計	12471	1452	7392	3627	2872	1937	1235	661	265	66	9	
男	6061	744	3743	1574	1207	766	451	212	69	12	1	
女	6410	708	3648	2053	1665	1171	784	449	197	53	8	
総人口に占める割合(%)												
男女計	100.0	11.6	59.3	29.1	23.0	15.5	9.9	5.3	2.1	0.5	0.1	
男	100.0	12.3	61.8	26.0	19.9	12.6	7.4	3.5	1.1	0.2	0.0	
女	100.0	11.1	56.9	32.0	26.0	18.3	12.2	7.0	3.1	0.8	0.1	
人口性比*	94.6	105.0	102.6	76.7	72.5	65.4	57.5	47.2	35.0	23.3	13.8	
2021年												
人口(万人)												
男女計	12553	1479	7453	3621	2833	1865	1194	639	252	62	9	
男	6103	758	3774	1572	1189	732	434	203	64	11	1	
女	6450	722	3679	2049	1644	1133	761	436	188	51	7	
総人口に占める割合(%)												
男女計	100.0	11.8	59.4	28.8	22.6	14.9	9.5	5.1	2.0	0.5	0.1	
男	100.0	12.4	61.8	25.8	19.5	12.0	7.1	3.3	1.1	0.2	0.0	
女	100.0	11.2	57.0	31.8	25.5	17.6	11.8	6.8	2.9	0.8	0.1	
人口性比*	94.6	105.0	102.6	76.7	72.3	64.6	57.0	46.5	34.3	22.5	13.8	

資料:「人口推計」
 ※) 女性100人に対する男性の数
 注) 表中の数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計が一致しない場合がある(以下この章において同じ。)

14. 教会に75歳以上の高齢者で一人暮らしの方は何人ぐらいいますか。



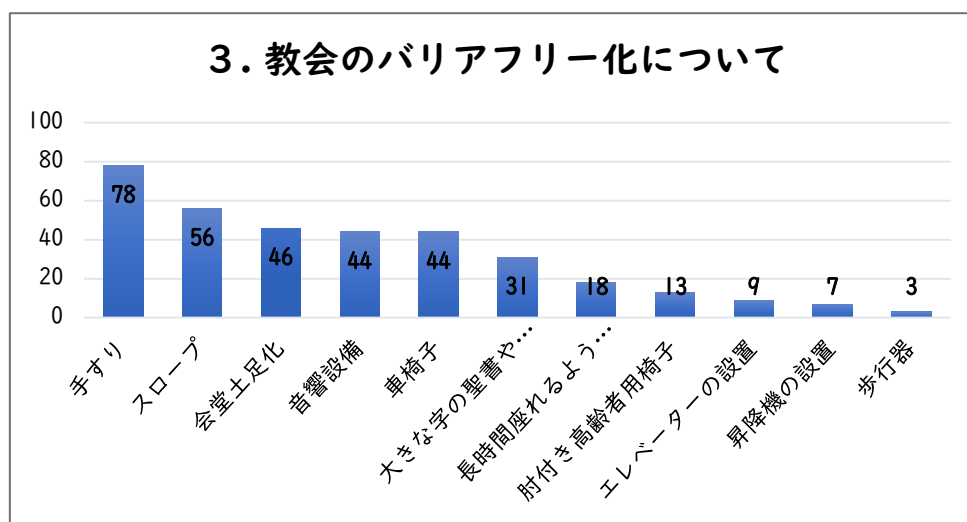
分析とコメント

教会におられる75歳以上の一人暮らしの高齢者の人数は、1人ぐらいが32教会で26%、2人ぐらいが22教会で18%、3人ぐらいが14教会で11%、4人ぐらいが9教会で7%、5人ぐらいが8教会で6%、6人、7人ぐらいがそれぞれ1教会で0.8%、8人ぐらいが2教会で1.6%、10人ぐらいが1教会で0.8%という結果となった。この先、社会現象から考えると教会の75歳以上の一人暮らしの高齢者の人数は増え続けていくことが予測される。

II. 教会内の対応ハード面【3～7】

3. 教会のバリアフリー（ユニバーサル）化についてお尋ねします。バリアフリー化している場合、該当するものにチェックをつけてください。123件

- ・スロープ ・車椅子 ・歩行器 ・手すり ・会堂土足化 ・音響設備（スマートスピーカー・FM トランスミッターなどの設置） ・肘付き高齢者用椅子 ・長時間座れるような椅子 ・昇降機の設置 ・大きな字の聖書や週報など印刷物 ・エレベーターの設置
- ・その他



～その他¹～

老眼鏡／字の大きな聖書・点字聖書、配布物朗読テープ（視覚障害者対応）など／多目的・車椅子用・身障者用トイレ／大型スクリーンの活用（歌詞など）／プロジェクター・プロジェクターの高輝度化・会堂後部にパワポ画面を写すモニターテレビの設置／礼拝時に高齢者用に長机を置く／体調不良時に横になれるスペース・畳の部屋／靴を履くための引き出し式椅子／教会は車椅子の準備はこれからです。自分のもので礼拝に出席した方はいるスロープは私物（隣の家から教会に移動するときに必要なので、私物で対応している）／段差のない会堂／外の歩道と地続き／礼拝堂を1階とした／現在はない（7）

分析とコメント

手すり 78、スロープ 56、会堂の土足化 46 回答が上位にあり、高齢者の教会での移動の安全確保に可能な限りの努力をしていると思われる。エレベーターの設置 9、昇降機の設置 7 などと低い回答となっているのは、会堂の構造やスペースの制約があるのではないだろうか。また車椅子は 44 回答あるが、歩行器は 3 回答しかなく、会堂内の段差などの問題で、より安全な車椅子が用いられていると思われる。聴覚や視覚の衰えに関しての対応として、音響設備（スマートスピーカー・FM トランスミッターなどの設置） 44、大きな字の聖書や週報などの印刷物 31 回答あった。それぞれの教会で、そこに集っておられる高齢者の状況に応じて工夫して

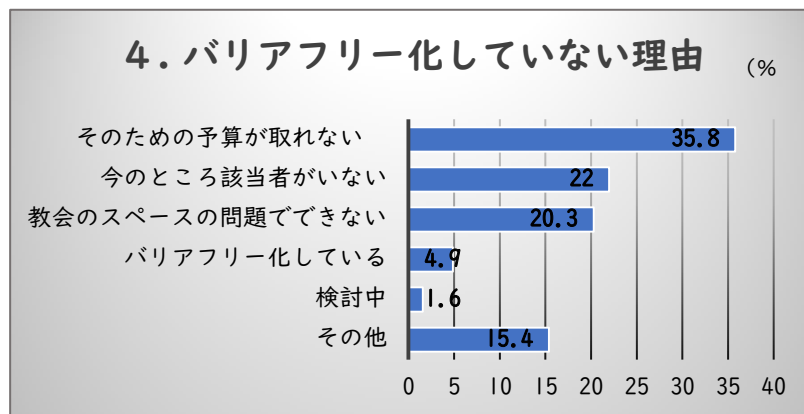
¹ その他（紫の文字）：回答教会からのご意見・コメントをまとめて掲載しています。

いることがこれらの値から示されているのではないだろうか。

4. バリアフリー化していない場合、該当するものにチェックをつけてください。123件

- ・今のところ該当者がいない
- ・教会のスペースの問題でできない
- ・そのための予算が取れない
- ・その他

～その他～



具体的に計画できていない／継続的に話し合っている途中である／該当者も予算もあるが、具体的な必要に合致しない／順次対応／これまで大きな問題が生じていなかったため／賃貸物件のため／一部、バリアフリー化していないところあり／できる範囲でしているが、不十分である／該当者はいるが、今のところ対応できている。会堂の土足化をどうするかが課題／車椅子対応に建築されている／一部バリアフリー化しています／バリアフリー化に続けて取り組んでいる／ある程度はバリアフリー化している(2)／バリアフリー化している部分あり／車いすを常時使っている人はいないので玄関はスロープにしていない／必要に応じて対応している／既の実施済／現時点で必要と思われることは実施済／検討中／教会施設なし／特に問題はないので／広すぎてしていない／借家

分析とコメント

バリアフリー化していない場合、「そのための予算が取れない」教会が35.8%、「教会のスペースの問題でできない」20.3%、教会のバリアフリー化に関して、教会の規模やスペースが狭小であったり、借家であったりするために問題を抱えているのではないかとと思われる。

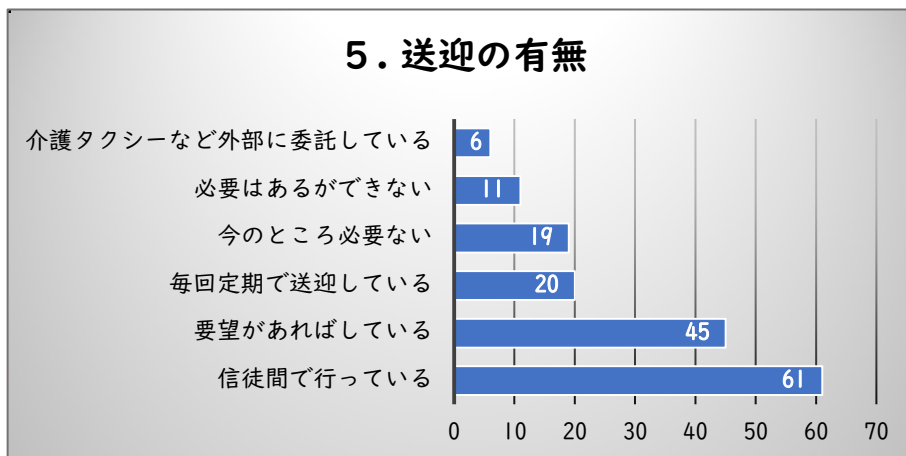
5. 高齢者の礼拝、諸集会への出席のために送迎をしていますか？ 123件

- ・要望があればしている
- ・毎定期で送迎している
- ・信徒間で行っている
- ・介護タクシーなど外部に委託している
- ・今のところ必要がない
- ・必要はあるができていない

～その他～

高齢者の娘が対応・同居家族がしている／現在できていない理由：コロナ禍、人材不足／命を預かる責任上の問題で、気楽にはお願いしにくい意識がある／オンライン礼拝に出席できるように整備している／駐車場がなく、自家用車を手放している

5. 送迎の有無

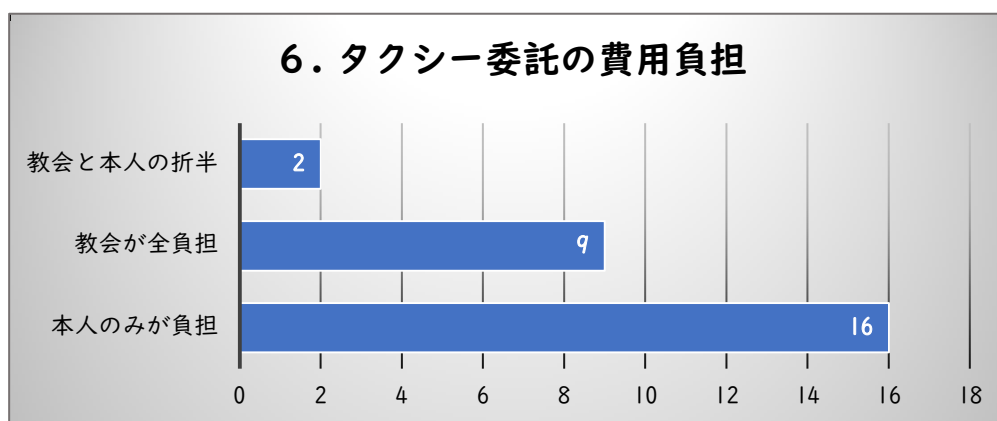


分析とコメント

高齢者の礼拝、諸集会への出席のために送迎は、「信者間で行っている」が 49.6%で、約半数の教会が信者たちの好意で行われていると思われる。「要望があればしている」が 45、「毎回定期で送迎している」20 回答あり、半数以上の教会で高齢者の送迎に関わっていることが窺われる。

6. 定期的な送迎をしている場合、また外部へタクシーを委託している場合、費用負担はどのようにしていますか？ 44 件

- ・教会が全額負担
- ・本人のみが負担
- ・教会と本人が折半
- ・プール制にして距離の違いに関係なく一律本人負担
- ・その他



～その他～

プール制にして距離の違いに関係なく一律本人負担／一律 100 円をガソリン代補助として本人が運転手に渡すことにしている／迎えは教会の車。送りは近い方向に帰る信者の無料奉仕／送迎奉仕者のボランティア／送迎者が負担 (5) / 太陽光発電を利用した電気自動車なのでかかっていない／以前は月 1 回送迎。奉仕者が負担／車のガソリン代を負担 (2) / 自由献金／個人的に送迎してもらう場合もある／個別のケースで異なる／委託はしていないが、月に一回お二人の方が介護タクシーに乗り合わせて来られている／高齢者のための定期的な送迎はしていない

分析とコメント

送迎の費用負担に関しては、44 教会が回答しており、高齢者送迎の対応を実施している教会の約半数が費用の負担を行っていると思われる。

7. 高齢者の礼拝、諸集会への出席のための送迎で、良かった点、あるいは課題などがありましたらお書きください。72 件

※意見は、同じような内容をまとめて表記してあります。「」で括ってあるのが一教会の意見です。意見件数は、項目のすぐ後に（ ）に記載しました。例えば 24/72 という表記は、回答 72 件中と同じような意見が 24 件あったということです。

良かった点

- ① 安全に礼拝出席ができる (24/72) : 「送迎で礼拝、諸集会に来会、歩行の困難で自力で来られない高齢者の出席が可能となっている」「続けて礼拝出席ができると喜ばれる」「参加したい高齢者の希望を叶えられる」「共に礼拝できる喜びがある」「高齢の方も気兼ねなく礼拝に集える点が良かった」「高齢者が、安全に礼拝出席できる」「ライブ配信の設備がない方が、直接、教会の礼拝堂に来られる」
- ② 近況の把握ができる (6/72) : 「移動時間に近況の把握が出来る」「送迎の車中での新たなよい交わりや霊的な励ましを得ていることは大変良かった」
- ③ 家族の方々との接点を持つ (3/72) : 「送迎者が、家族の方々との接点を持つ、相手先ご家族と交わりができ教会とのつながりが持てた」
- ④ 安否確認ができる (2/72) : 「該当者の安否確認ができ、未信者の家族に安心してもらえる」
- ⑤ 助け合うことの学びができる (2/72) : 「信徒が助け合うことを学ぶことができる」「一緒に礼拝に出席するモチベーションが奉仕者にも与えられていることが良い点」
- ⑥ 家族のサポートでの送迎 (2/72) : 「家族のサポートがある」「高齢者の娘が対応するので、高齢者の意志がよく通じる」

課題

- ① 送迎時の事故対応の課題 (24/72) : 「事故の場合の対応」「保険の問題」「万が一、事故が起こった場合の対応を考えると不安がある」「以前、100 歳の方が出席した時に、屈強な教会員が車までの数メートルをお姫様抱っこした。落下して骨折することもあり得たと思うとゾッとする」「事故のあった場合の補償に意見が分かれます。自己責任論が優勢です。事故対応のための保険をどうするか」「事故時に個人の責任となる」「教会員の送迎については、事故等における責任問題が明確でない」「交通事故の加害者になった場合、しこりが残りやすいように思う」「教会の加入している保険でカバーできるのか慎重に考えるべき事柄と思う」「高齢者信徒が高齢者信徒を送迎することへの不安」「交通事故に遭った場合の補償、責任の所在が曖昧になる」「信徒間の送迎のため、トラブル(事故等)の時の対応の問題」「事故の場合、運転者の負担(保険・手続き等)が発生する」「個人の送迎の場合、事故や年齢の問題もある」「乗降時に事故が発生した時の補償をどうするか」「送迎中の事故の責任問題」「送る人も高齢者。事故のリスク。安全の不安が課題」「事故や怪我の場合の責任問題が課題」「送迎は良いのですが、事故の場合責任を誰が取るかの課題がある」「送迎は信徒の奉仕としているが、バックアップ体制が出来ていない」
- ② 送迎奉仕者不足の課題 (21/72) : 「運転免許証所持者が減っている」「今後のさらなる必要が見込まれる」「奉仕者不足は大きな課題」「送迎できる奉仕者が少なくなっている」「運転できる奉仕者不足」「今後、当該者が増える場合の対応(奉仕者)」「住居が広範囲に渡るため、送迎している人も高齢化してきておぼつかしくなった」「送迎奉仕者の高齢化」「礼拝後の各会や委員会があり、帰宅する方を送る手配が困難な場合がある。朝の迎えの対応が難しい」「教会送迎バスに乗れない地域にお住まいの方や近くに送迎可能な信徒がおられない場合の送迎対応に悩んでいる」「また、さらに進む高齢化に伴う送迎が必要な方々への対応を迫られている」「担当者がいないので声を上げられないかもしれない」「担当者が出来ない場合、牧師へ依頼している⇒牧師の負担が増える」

- ③ 奉仕者の負担 (20/72) : 「送迎者 (特定の教会員) に負担が大きくなる」「時間的な負担が増える」「個人の好意で行っていたため、負担が大きかった」「奉仕者が限られている」「過去の件ですが、送迎者が1人だった為、負担が生じたことがある」「送迎奉仕と礼拝奉仕は別々の信徒が担当したほうがよいが、それだけの人員を確保できない」「奉仕者確保と運用はかなり大変」「教会で送迎の場合は、奉仕者が足りない。ただレギュラーでは行えていない」「マンパワーが足りないため定期的な対応が困難である」「送迎車両として確保されているものではなく、教会車を使用しているため1台のみでの対応になっていること、主日朝などは奉仕が様々あるため、従事できる奉仕者がなかなか確保しにくいことなどから、近隣に限定しており、市外に在住の方への送迎ができていません」「今のところ信徒有志で事足りるが、そのうち送迎車を教会で用意する可能性もある」「奉仕者が足りない、送迎の奉仕者がいない場合は集会に参加できない」
- ④ 送迎の遠慮 (6/72) : 「遠慮される」「無料だと『申し訳ない』と断られることがある」「遠方の方々は自ら遠慮されることが多い」「遠慮されて教会に集わなくなることがある」「毎回は申し訳ないと思慮される」「送迎を頑なに遠慮される方はいる」
- ⑤ 認知症の課題 (4/72) : 「認知が出てきた」「高齢のため時間を忘れていたり、勘違いしたりする」「高齢者側が待ち合わせを忘れることがある」「連絡が難しい」
- ⑥ 個人奉仕となる課題 (5/72) : 「個人が行っている」「親族や教会員に依存している」「教会としていつも対応できるようにしたいと願う」「当方からは積極的な迎車を勧めていない、自力で来れるすべを最後まで確保する」「送車はその場で可能な人が担うようにしている」
- ⑦ 乗合送迎を嫌がる課題 (1/72) : 「ただ特定の個人との乗り合いを嫌がる人が居る」
- ⑧ 車両確保の課題 (2/72) : 「車の確保」「奉仕できる車両が限られている」
- ⑨ 加速する高齢化への対応 (2/72) : 「車社会なので、高齢で車が運転できなくなると、(送迎が難しくなると) 礼拝に出席できなくなる」「会員・長老・執事の平均年齢が70才を超えていてほとんどが自分で運転して礼拝に来ているため、5年もすれば送迎が必要または自宅で礼拝をする可能性が高いため、計画的に準備している」
- ⑩ 運転技術への不安感 : 「ドライバーによっては高齢者に不安を与えてしまう」
- ⑪ 個人的リクエストへの対応 : 「買い物など、個人的な都合、リクエストへの対応」
- ⑫ 教会との距離感 : 「距離が遠い場合がある」
- ⑬ 本人意思の課題 : 「本人の意思を尊重しつつ対応する (自分で来たい願いがあがるが、危険もある)」
- ⑭ 意思疎通の課題 : 「送迎者同士のやり取り、送迎される人と送迎する人との意志の疎通、忖度等が課題」

分析とコメント

高齢者の礼拝、諸集会への出席のための送迎で良かった点として、歩行が困難な高齢者も礼拝や集会出席ができるようになったということが、回答72件のうち16件で出されていた。また送迎時に高齢者の近況把握、交わりや霊的励ましの時となっていることなども出ている。

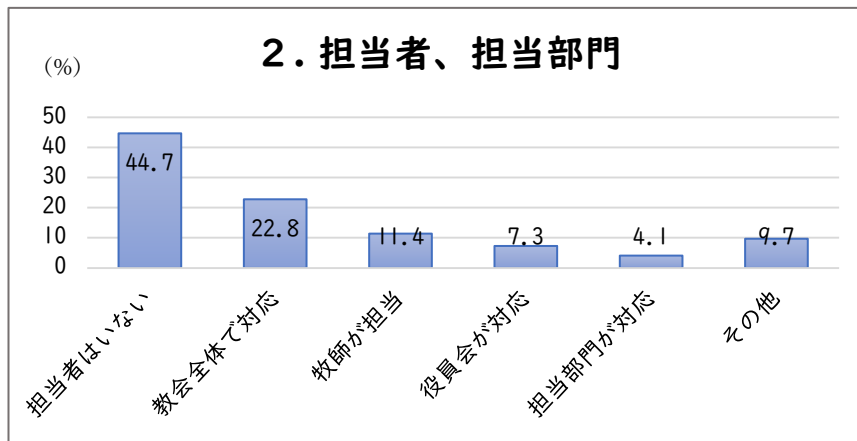
課題としては、送迎時の安全確保、事故時の保険対応の問題、事故や怪我の対応の厳しさが回答72件中24件出しており、送迎時の大きな不安要素となっていると思われる。また、送迎する奉仕者の確保(奉仕者不足、運転者の高齢化など)や、送迎をする奉仕者の負担感などを持っているという回答は合わせて41件出しており、日本社会が2025年問題²に直面する中で今後ますます大きな課題となってくることが浮き彫りになっていると思われる。

III. 教会内の対応ソフト面【2、8～11、15】

² 2025年問題:国民の5人に1人が後期高齢者(75歳以上)という超高齢化社会を迎えることで、雇用や医療、福祉など社会にもたらす諸問題を指す。

2. 教会で高齢者対応の担当者、担当部門がありますか？ 123件

- ・担当者がある
- ・担当者がいない
- ・牧師が担当
- ・役員会が対応
- ・教会全体で対応
- ・担当部門が対応
- ・その他



～その他～ 9.7%

担当者がいないが、有志（対応できる人）で対応している／特定の担当者がいないが個別に牧師が対応している／担当者・担当部門ともに未設置で、今後のために体制を検討中／担当者がいない。牧師、役員会、教会全体で対応（2）／役員が中心に気にかけて対応している／牧師が担当、教会全体で対応／該当者がいない。教会全体で対応／担当者がいない。役員会が対応／数名の教会員有志がそれぞれ情報を得て、必要に応じて動いている

分析とコメント

各教会での高齢者対応は、「担当部門が対応」が4.1%で、約半数の教会が「担当者がいない」44.7%と回答している。「教会全体で対応」22.8%、「牧師が担当」11.4%、「役員会が対応」7.3%で、全体の41.5%にあたる。担当部門を持つことが難しい状況の中で約半数の教会が、教会全体、牧師、役員で高齢者対応していることが見えてくる。

8. 高齢者のための配慮やプログラムがありますか。あるとすれば、どのようなものですか。

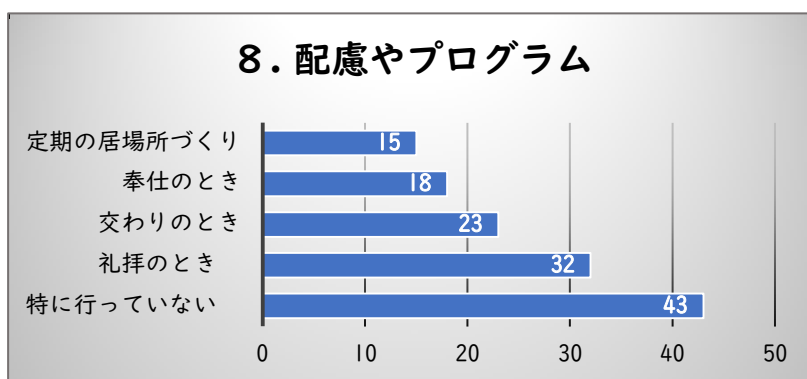
以下、該当するものにチェックをつけてください。123件

- ・居場所づくり：() 定期で () 不定期に
- ・奉仕のとき
- ・どんな奉仕をしてもらっていますか
- ・礼拝のとき
- ・交わりのとき
- ・学びのとき
- ・伝道プログラムのとき
- ・高齢者への奉仕者養成
- ・その他

～その他～

高齢者への奉仕養成／できることは続けてもらっている／礼拝を献げることが大切な奉仕であることをお話している。前は昼食を共にする場があったがコロナで中止している／施設に入居されている方には、クリスマスや敬老の日に教会みんなで寄せ書きして牧師が持って行く。LINEが使える方は、教会のグループLINEで礼拝／奉仕のとき：食事の調理、配膳、食器洗い、礼拝のとき：机を用意している、交わりのとき：大きな声で話す、学びのとき：隣の人が手伝う／高齢者への奉仕者養成は今後検討する／月1回のペースでお楽しみ会と年1～2回のツアーを定期開催していましたが、コロナで中断中／健康体操「ふまねっと」～認知症予防～（週1回）／奉仕のとき：体の負担の少ない奉仕（図書係など）、礼拝のとき：車椅子で、交わりのとき：話しかけを積極的にする／交わりのとき：「夕ばえフレンズ」の集会でゲームやクイズで

頭を使う／敬老の日にプレゼントを贈っています／とりなしの祈り／家庭訪問、お手紙／集音器マイク利用／敬老の日に祝福のお祈りをしてプレゼントを渡す／祈り会の後の清掃、礼拝時の献金当番／他の方と同様にご挨拶や声かけなど／奉仕のとき：週報折り、メールボックス、説教題の書写など贈物を生かして、礼拝のとき：献金の所持、交わりのとき：各会（壮年会、婦人会）／体操教室／奉仕のとき：受付、感謝祈祷／礼拝説教の完全原稿を配布／奉仕のとき：お花、訪問、発送作業、礼拝のとき：受付／奉仕のとき：基本まじめに黙々と奉仕する人が多いが、できるだけ話し、交わるように工夫している。学びのとき：分かち合い。その他：NPO集会や交わりに参加いただく（デイサービスの喫茶、子ども食堂、子育て相談会など）／奉仕：祈りの奉仕／80歳を越えても献金、司会、掃除などお願いしている／年1回、高齢者向けの集い。コロナ禍ではプレゼントを渡すだけ／礼拝後の体操／訪問／昔の歌を歌う会／献金のお祈りは普段講壇前でしているが、その場でしてもらう／毎週の元気体操／自治体主催の認知症サポーター養成講座／75歳以上の兄弟の集い（家庭集会）／以前に高齢者のための集会を行っていた。事情があり中断しています／暖かい席に案内している／家庭礼拝と聖餐式の実施、教会員が入居している施設での礼拝／自宅、施設での療養中の方のための訪問聖餐式を行う／転倒予防の配慮（歩行介助）、コミュニケーション、困り事を伺う／礼拝奉仕、献金、受付、生け花など／毎主日午後の牧師の電話でのみことばと祈りのサポート、Zoomでのみことばの学び（月に2回ぐらい）、病院受診の際の会堂での聖餐、随時教会員宅訪問（2ヶ月に1回程度）、近所の高齢者の訪問（年に数回）／オンライン礼拝、オンライン祈祷会

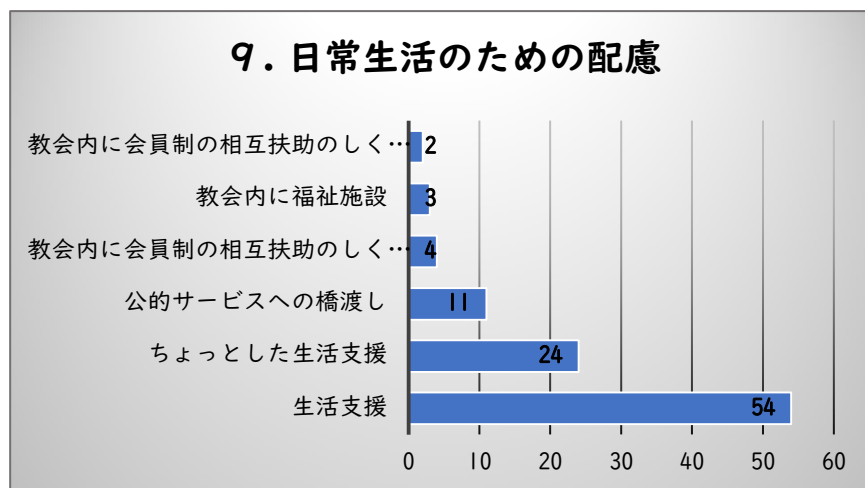


分析とコメント

高齢者のための配慮やプログラムに関しては、「特に行っていない」が43回答であるが、「礼拝のとき」32、「交わりのとき」23、「奉仕のとき」18、「定期の居場所づくり」15回答あり、教会がなんらかの形で高齢者に配慮していることが窺われる。

9. 高齢者の日常生活のためにどのようなことを配慮していますか。以下、該当するものにチェックをつけてください。80件

- ・生活支援（見守り、話し相手、安否確認、災害時に備えた連絡網、通院や買い物の付き添い、役所などへの手続き代行、郵送物の確認）
- ・ちょっとした生活支援（カーテンや電球などの取替、家電や携帯電話などの取扱説明、家のちょっとしたお手伝いなど）を実現するための教会内組織（ある・ない）
- ・教会内に福祉施設（ある・ない）
- ・教会内に会員制の相互扶助のしくみがある場合（無料・有料）



～その他～

一人暮らしの場合、何かあった時のために自宅の予備鍵を預かっている／時々伝道師が電話をかける／生活支援、ちょっと SOTA 生活支援について、相互扶助（有料）の仕組みを作っていたが利用者がほとんどなく現在休止中。家の教会で各牧場³ごとに必要に応じた配慮の実践／チェックした生活支援について教会からの依頼・要請ではなく教会員・教職者が相互に行なっている／個別に手伝い／生活支援：見守り、話し相手／生活支援：見守り、話し相手、安否確認、通院や買い物の付き添い。教会内に会員制の相互扶助の仕組み有料（互助会）／生活支援：見守り、話し相手、安否確認、災害時…、通院、役所などの手続き、メールチェック。ちょっとした生活支援：有志で行っている／必要に応じて伝道師が（Zoom などの）オンライン対応のサポートを行う時がある／教会内に専門職の信徒が複数いる／80 歳を超えても献金、司会、掃除などをお願いしている／教会内に福祉関連の人材を通して公的サービスに繋げたり、教会ができることを行ったりしていること／上記の生活支援は家族が中心。教会員はあたたかく迎えて話し、共に祈る。

分析とコメント

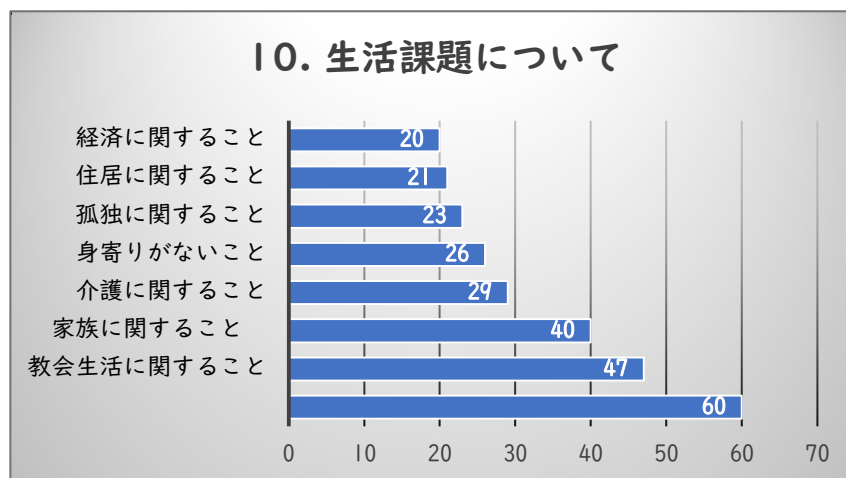
高齢者の日常生活のための配慮としては、「生活支援（見守り、話し相手、安否確認、災害時に備えた連絡網、通院や買い物の付き添い、役所などへの手続き代行、郵送物の確認）」54、「ちょっとした生活支援（カーテンや電球などの取替、家電や携帯電話などの取扱説明、家のちょっとしたお手伝いなど）を実現するための教会内組織」24、また「公的サービスへの橋渡しをしている」が 11 と複数回答されており、高齢者の日常生活に配慮していることが窺われる。

10. 以下の生活課題について、高齢の教会員から具体的にどんな相談や必要がありますか。該当するものにチェックをつけてください。（差し支えなければ、これまで受けた相談内容

³ 牧場：家の教会は、新約聖書に出てくるように、信徒の中で立てられた牧者が牧会する、スモールグループです。それぞれの家の教会の集まりが地域教会ですが、地域教会との混同を避けるために、「牧場」と呼んでいます。「牧場」は家庭を単位として集まりますので、互いに愛し合いなさいという御言葉に従い、信徒同士の身近で具体的な関わりが行われやすくなっています。」

を「その他」のところに書ける範囲でお書きください) 97件

- ・介護に関すること
- ・健康に関すること (通院・入院・手術など)
- ・経済に関すること
- ・家族に関すること
- ・住居に関すること
- ・孤独に関すること
- ・身寄りがいないこと
- ・教会生活に関すること
- ・その他



～その他～

送迎の必要性についてなど／今後の検討課題：高齢の教会員家族を抱えた教会員への教会全体として協力／経済に関して：認知機能低下による金銭トラブルについて／介護施設への見学を企画同行。お見舞いなどの相談。教会員家族のケア、訪問。空き室の管理、郵便物の転送。不安、寂しさを抱えている高齢者への訪問、励まし。礼拝や諸集会参加のための様々な配慮／葬儀のこと／薬の仕分け、病気・病院・主治医について、癒しの祈り、手術前の祈り、通院の付き添い、介護タクシーの利用回数が限られているため礼拝出席回数が制限される。葬儀関係の相談。騒音などの嫌がらせ対応／介護保険利用まで、入院中面会祈祷、一人暮らしの高齢者に必要なことすべて、礼拝出席できない方に Zoom 利用を教える／教会墓地に関すること／教会生活に関すること：礼拝に来る手段について／病院への通院のための車での送迎依頼／教会生活に関すること：礼拝に行きたいが、グループホームがコロナ禍で出してくれない／手が不自由な方のための薬の仕分け、医師からの病状説明を家族の代わりに聞く、騒音対策、教会員とのトラブル、葬儀など／一人暮らしの教会員の自宅の鍵の預かり (安否確認のため)／2階への階段昇降が時々困難／教会に通い続けるための健康と交通手段についての不安／祈って欲しい／身寄りがなく任意後見人を牧師が引き受けた。

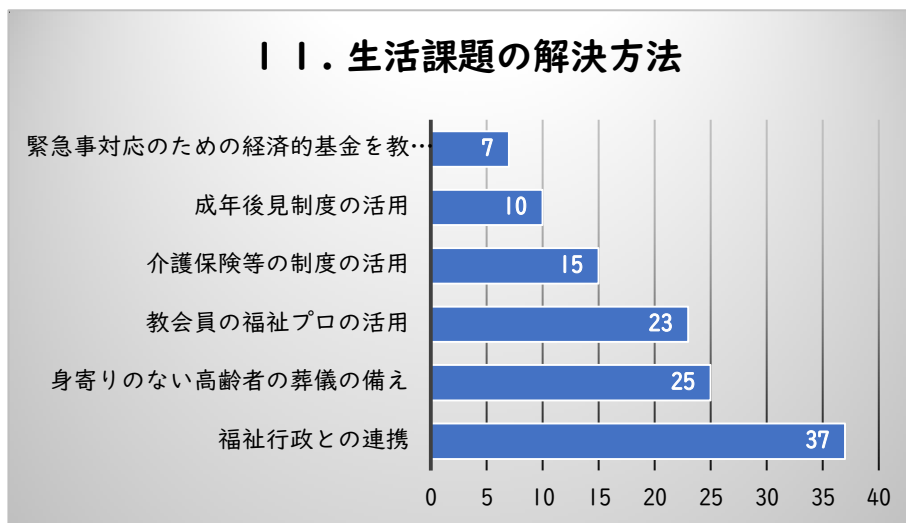
分析とコメント

高齢の教会員から生活課題について具体的な相談のトップは、「健康に関すること (通院・入院・手術など)」60 回答で、次に「教会生活に関すること」47 回答、「家族に関すること」40 回答と続いている。「介護に関すること」29 回答、「身寄りがいないこと」26 回答、「孤独に関すること」23 回答、「住居に関すること」21 回答からは、近くに家族がおられなかったり、一人暮らしだったりする高齢者にとっては、これらのことは不安要素であり、教会としての配慮が求められていることが窺われる。

11. 上記のような生活課題を抱えた教会員の問題を解決するためにどんなことを行なっていますか？下記に該当するものにチェックをつけてください。77 件

- ・福祉行政との連携
- ・教会員の福祉プロの活用
- ・介護保険等の制度の活用 (手続きを家

族、信徒、役員、牧師が行っている) ・緊急時対応のための経済的基金を教会に設置 ・身寄りのない高齢者の葬儀の備え ・福祉に重荷を持つ教会員に教会専属福祉委員としての奉仕(交通費程度は支給) ・成年後見制度の活用(手続きを信徒、役員牧師が行っている) ・その他



～その他～

付き添い(行政機関、病院) / 見守り(声かけ、訪問、家族への連絡など) / 礼拝支援(1階にモニター設置) / 相談支援(医療相談・情報提供・傾聴・共感など) / 牧師や牧者、教会員有志がその都度対応

分析とコメント

生活課題を抱えた高齢の教会員の問題解決のために、まず「福祉行政との連携」が37、「教会員の福祉プロの活用」が23、「介護保険等の制度の活用」が15、「成年後見制度の活用」が10回答あった。また「身寄りのない高齢者の葬儀の備え」が25の教会が取り組んでおり、「緊急事対応のための経済的基金を教会に設置」している教会が25回答で、身寄りのない高齢者のための備えをしているようだ。

15. 高齢者で一人暮らしの方(75歳以上)にどのような対応をしていますか。89件

- ① 訪問・安否確認・電話(53/89): 「定期的な連絡と訪問。個人的に交わりの機会を作って誘う」「時々訪問している」「話し相手」「コミュニケーション」「牧師や教会員が訪問や連絡、時には生活支援(菓の仕分け)など」「担当者、牧師、牧師夫人が訪問」「声かけやメール・LINE・電話・訪問による安否確認・状況確認」「定期的な連絡と声かけ(施設入居者も含む)」「安否確認(毎週牧場出席)」「牧師の声かけ」「信徒間で声をかけ合う」「日頃より様子を聞いている」「連絡を密に取るよう心がけること」「礼拝を欠席された週は訪問・電話などをする」「連絡なしに礼拝をお休みになった時にはこちらから連絡を取る」「説教原稿配布(お届け)」「電話や訪問など、牧師・家の教会の牧者その他で対応」「生活状況の聞き取り」「定期的に訪問(コロナで老人ホームは難しい状況)とお電話と週報等の郵送」「在外教会員のため、郵便物送付やメール連絡を取っています」
- ② 食事などの差し入れ(5/89): 「信徒が個人的に、高齢者が体調を壊され時に食事などを運ぶ」「親しい信徒の方がフォローしている。食事(弁当届け)、通院、掃除など」「時々様子見、食べ物の差し入れ」
- ③ 送迎(12/89): 奉仕時の送迎、信徒間での礼拝時送迎」「お元気なので礼拝の送迎のみ」
- ④ 見守り(1/89): 「教会に来られた時には健康状態など気をつけて様子を見る」
- ⑤ もしもの時(6/89): 「連絡先確保」「他の教会員との繋がりをつくる」「緊急時の対応を確認している」

「ご家族の方いつでも連絡を取り合えるようにしている」「何かあったときのために家の鍵を牧師が預かっている」

- ⑥ 手続きなど、手伝い (8/89)：「買い物などの生活のサポート」「重たい物の運び手伝いなど」「セルグループを通してサポート」「役場福祉課と連携、訪問」「医療相談、情報提供」
- ⑦ 教会での行事 (2/89)：「高齢者祝福式」「いきいき百歳体操に参加を呼び掛け、日常のことを話し合う」
- ⑧ 家庭礼拝など (2/89)：「家庭礼拝と聖餐式」「オンライン礼拝」
- ⑨ 家族やヘルパーなどでのケア (3/89)：「近隣に暮らす家族がケアするので教会が特にすることはない」「お二人とも身体障害があり、日々ヘルパーが来られているので、見守りの目はある状況です」「障害者の方 (1人は全盲、1人は肢体不自由) はヘルパーを利用している」
- ⑩ 自立されている (7/89)：「現時点では、全て自ら対応している」「感謝なことに、元気で第一線の奉仕者」「自立されている方で、今のところ問題はない」「現在特に必要とされていない」「元気で自立しているので対応なし」「元気なので特に対応していない。今は何もしていない」

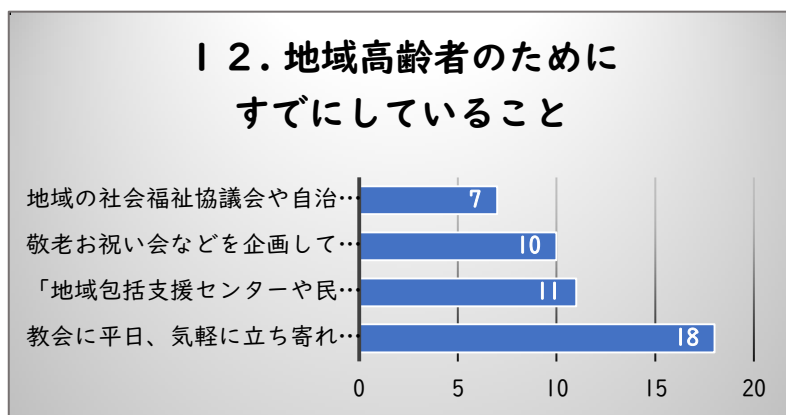
分析とコメント

一人暮らしの75歳以上高齢者への対応としては、訪問や声かけ、電話やメールなどによる安否確認と、緊急時の連絡先確認を含めると、回答数の半数以上あり、大切な働きとなっていることが窺える。教会への送迎、役場福祉課と連携、医療相談、情報提供、公的手続きなどや日常生活の手伝い、通院、食べ物の差し入れなど、具体的な支援や配慮をしていることも窺われる。反面、現時点ではお元気で自立しておられ、奉仕者として活躍しておられるケースも上げられており、復活の希望を仰いで主と共に歩む信仰の祝福が窺われる。

IV. 教会の外への対応【12、13】

12. 教会として地域の高齢者のために、すでに実施しているものはありますか。該当するものにチェックをつけてください。44件

- ・敬老お祝い会などを企画して地域の高齢者をお招きする
- ・教会に平日、気軽に立ち寄れる居場所づくりなどを設ける
- ・地域包括支援センターや民生委員、社会福祉協議会等と連携して、会堂で体操教室や交流の場、認知症の方のためのカフェなどを実施する
- ・地域の社会福祉協議会や自治会が行う福祉行事に参加する
- ・その他



～その他～

高齢者施設等との関わり（喫茶ボランティア、慰問、礼拝と祈り会、弁当配布の手伝い）／教会の活動（「たいそうクラブ」、書道教室、茶飲み、敬老祝福の祈り、クッキングへのお招き、バザー、社協への募金寄付）

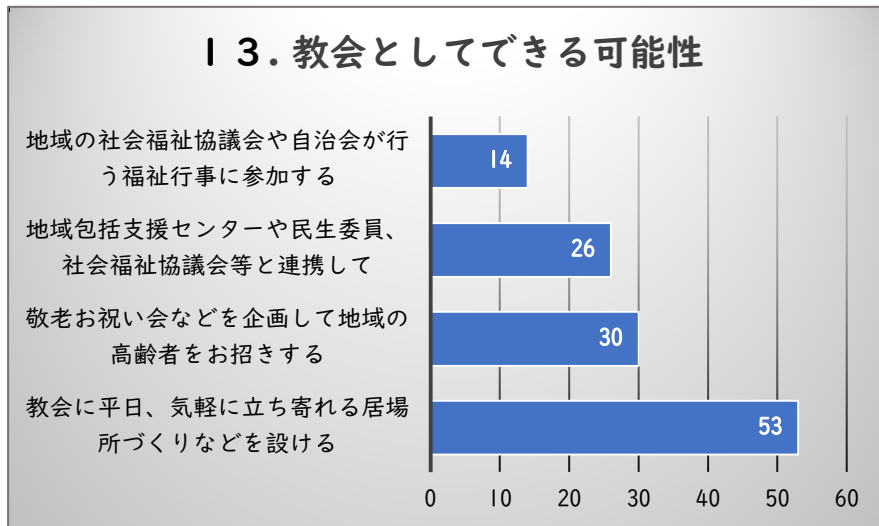
分析とコメント

教会として地域の高齢者のために「教会に平日、気軽に立ち寄れる居場所づくりなどを設ける」が18、「敬老お祝い会などを企画して地域の高齢者をお招きする」が10回答あり、教会が教会独自の働きとして地域への対応を実施している。地域との連携では「地域包括支援センターや民生委員、社会福祉協議会等と連携して、会堂で体操教室や交流の場、認知症の方のためのカフェなどを実施する」が11、「地域の社会福祉協議会や自治会が行う福祉行事に参加する」が7回答あり、教会が地域と連携して実施していることが窺われる。

13. 教会として地域の高齢者のために、もしもできることがあるとしたらどんなことでしょうか。該当するものにチェックをつけてください。83件

- ・敬老お祝い会などを企画して地域の高齢者をお招きする
- ・教会に平日、気軽に立ち寄れる居場所づくりなどを設ける
- ・地域包括支援センターや民生委員、社会福祉協議会等と連携して、会堂で体操教室や交流の場、認知症の方のためのカフェなどを実施する
- ・地域の社会福祉協議会や自治会が行う福祉行事に参加する
- ・その他

13. 教会としてできる可能性



～その他～

牧師は現在民生委員、会長、社会福祉協議会評議委員／毎年クリスマス募金を集めて社協に寄付している／定期的な訪問／早天・朝食会、伝道的な集会ならば可能性はあります

分析とコメント

教会として地域の高齢者のためにできることとして上げられていることは、「教会に平日、気軽に立ち寄れる居場所づくりなどを設ける」が 53、「敬老お祝い会などを企画して地域の高齢者をお招きする」が 30、「地域包括支援センターや民生委員、社会福祉協議会等と連携して、会堂で体操教室や交流の場、認知症の方のためのカフェなどを実施する」が 26、「地域の社会福祉協議会や自治会が行う福祉行事に参加する」が 14 回答あり、教会として地域の高齢者のためへの関わりを持ちたいという関心の高さが窺われる。

V. 事例【16、17】

16. 教会としてこれまで行なってきた高齢者対応で、良かったことはどのようなことですか？ 84件

- ① 定期的な集会 (24/84)：「月一度の定期的な集会及び催し物」「教会員高齢者のお祝い会」「敬老の日のお祝い」「敬老の日のお祝い会」「高齢者向けのお楽しみ会や旅行などの交わりから救われた方がありましたし、教会員との関係を深めるきっかけになったということもあります」「高齢者向けの学び・交わり・食事・礼拝（聖餐）の時を持っていたこと」「『夕ばえフレンズ』の集会で参加者が励まされている(コロナで中断中)」「家庭集会在励ましになっている」「祈祷会が励ましとなる」「高齢者祝福式により、教会全体で覚え、祈っている事が伝わっている事」「敬老プログラム」「高齢者向け集会（月1回）」「高齢者を対象にした集会を通して、救われた方がおられた」「現在は行っていないが、以前、高齢者を対象とした「ほのぼののスペース」を月一回実施し、良い交わりとなった」「敬老祝福礼拝の実施」「祈り、プレゼント」「認知症対応（オレンジリング）講習会実施」「高齢者対象の家庭集会の開催」「敬老の日の集いで感謝を表した」「みんなで75歳以上の方々のためにお祈りし小さなプレゼントをお渡しした」「高齢者向けの集いを月に一度してきたこと（現在休止中）」「体操を実施したこと」「月に一度の交わりの会で会堂内だけでなくピクニックや食事会もおこなったこと」「毎週土曜日のカフェ」
- ② 送迎 (14/84)：「礼拝への送迎と施設への訪問」「信徒が自発的に送迎をしてくれていたこと」「送迎によって、毎週の礼拝参加ができること」「車での送迎。送迎車があることで、礼拝に来ることができたこと」「礼拝に来られるための送迎」「タクシーと契約し毎週日曜送迎」「教会送迎の際に、会話をすることができ、交わりにつながった」
- ③ 教会のバリアフリー化 (14/84)：「廊下とトイレに手すりをつける、肘付きの高齢者用椅子を備える、車椅子を備える」「教会のバリアフリー化、音響対策」「2022年4月に新会堂を献堂し、会堂内はすべてバリアフリーで好評です」「耳が遠い方に対してイヤホン等の音響設備を整えたことにより、説教を聴くことができるようになった」「バリアフリー対応です」「印刷物」「踏み台（車乗り降り用）、ひざ掛けの用意、それぞれの高齢者のため窓口になる役員または役員経験者を定めておく」「階段、トイレに手すりを設置」「スクリーンに映写する歌詞の文字をユニバーサルデザインのフォントに変更」「2階の会堂に昇る階段に昇降機を設置」「音響設備の改善」「聴力が弱くなるので、スピーカーを近くに置く」「メッセージ内容（原稿）の配布」「説教原稿配布」
- ④ 訪問 (13/84)：「定期的にご自宅に訪問」「自宅に行くことで高齢者側がお手伝いをお願いしやすくなる雰囲気がありました」「月1回の家庭訪問（現在はコロナで自粛中）」「訪問、電話での安否確認」「家庭を訪問」「施設訪問」「自宅訪問」「訪問して礼拝することが出来たこと」「訪問や電話などの個別対応」「お見舞い」
- ⑤ 地域との接点 (7/84)：「福祉との協力」「高齢者施設の喫茶ボランティア、高齢者施設への慰問」「健康運動『ふまねっと』の働き」「地域の方々との接点、諸集会（礼拝）へ導かれた」「地域交流サロンとして地域の高齢者とつながり、気軽に話し合えるようになったこと」「老健施設へのキャロリング」「地域の生活困窮者への食料配布のお手伝い」
- ⑥ 声かけ (4/84)：「土曜日、『明日は礼拝ですよ』と連絡する」「高齢者には、マメに電話をする」「声かけ」「電話などの声かけ」
- ⑦ 傾聴 (4/84)：「話を聞き、求めに対してその都度対応した」「心配や相談に乗り話し相手になること」「相談したい方が起こされている」「よく話を聴いて祈ってあげる事」
- ⑧ 教会文書送付 (3/84)：「礼拝に来られなかった日は週報ポスティング」「手紙発送」「手紙などのコミュニケーション」
- ⑨ 生活支援 (4/84)：「教会員が個人的に通院や相談に乗って、孤独になることのないように見守ってくる

ことができた」「基本的な生活を送ることができるようなサポート」「教会として動ける人はいないため、牧師が家のお片づけ、電気系の配線整備、インターネットの設定や使い方、電気の契約手続きなどを手助けしていました。とても喜んでくださりそのご家庭で、クリスマスの集会などで、平日の集会に繋がる方も起こされ感謝でした」「牧師個人がケアマネと連携して、生活支援を考えている」

- ⑩ 臨機応変な対応 (3/84) : 「必要に応じて、その都度対応してきました」「自然発生的に行えている」「ケースバイケースで行っている」
- ⑪ 奉仕の依頼 (2/84) : 「特別集会で体操指導の係をしてもらった」「クリスマス会で若い人とペアで司会をしてもらった」
- ⑫ 相互理解 (2/84) : 「互いに理解し愛し合うことに役立った」「教会が一人ひとりを大切にすることを理解していただいた」
- ⑬ オンラインの活用 (2/84) : 「コロナで始めたオンライン配信」「Zoomでのみことばの学び」
- ⑭ 高齢者グループの活用 (2/84) : 「高齢者のグループである『シニアーズ友の会』を始めたこと」「シニアホームと協力して礼拝や祈り会、その他の集会を始めたこと」
- ⑮ 学び会の実施 (2/84) : 「修養会のテーマとして学び (2回実施)」「高齢に関する学び」
- ⑯ 集会時の諸サポート (2/84) : 「礼拝時のサポート」「聖書を持参することが大変な方のために個人の聖書を保管する場所を設置」
- ⑰ 高齢者対応担当の設置 (2/84) : 「高齢化を迎えるための委員会作り」「公私混同を可能な限り避けつつも、教會的なサポートを構築中」
- ⑱ 判断能力が厳しくなった高齢者への対応 (3/84) : 「成年後見人制度の利用」「教会としてではないが、任意後見人として最期まで見届けた」「身寄りがない高齢者の方の身元引受」
- ⑲ 愛餐会 : 「コロナ前の毎週の食事会 (礼拝後)」
- ⑳ 教会としての高齢者への取り組み : 「高齢者対象の福祉事業への取り組み」
- ㉑ 遺骨の対応 : 「教会墓地があるため、身寄りのない方や墓じまいに伴う遺骨の受け入れなどの対応ができた」
- ㉒ キョウイク (今日も行くところがある)、キョウヨウ (今日も用事がある) の場としての教会 (3/84) : 「具体的な対応ではなかったが、高齢者が数人教会に通っておられた時期は、高齢者同士の交流の場になっていた」「高齢の女性を対象にした家の教会を開き、主日以外にも集まりがあるので、信仰の励ましになっている」「スマホ教室」
- ㉓ 出張聖餐式 : 「コロナ下で施設を訪問できなかったとき、近くの公園で出張聖餐式をしたこと」
- ㉔ 家族との対応 (2/84) : 「教会員高齢者のノンクリスチャンの家族から感謝され、よき交わりを持っている」
- ㉕ 亡くなった時の対応 : 「葬儀」

分析とコメント

教会としてこれまで行なってきた高齢者対応で良かったこととしては、送迎や訪問、電話などでの声かけが回答 84 件中 31 回答、高齢者を対象とした集会や行事の企画が 24 回答、教会のバリアフリー化や音響設備、視聴覚物の改善などが 17 回答、傾聴や生活支援などが 8 回答あり、各教会が神の家族として高齢者に寄り添い、教会ができる対応としてこれまで行なってきたことを良かったと評価していることが窺われる。

17. またあまり効果的でなかったことがありますか。それはどんなことですか？ 29 件

- ① 高齢者との関わり方 (12/29) : 「関わりすぎる事」「依存すると結果的に良くない」「過度な話しかけ、見守りながらがよい」「人によっては、当たり前感覚になる」「買い物代行サービス (ニーズと奉仕者の折り合いがつかず)」「困ったことを手助けしようと手伝いを申しても、本人が受け入れない」「ワンコイン (500円) サービスを始めたが早すぎてまだ利用者がいなかった」「法的根拠を持たないお世話、善意のお世話、最後は何もしない親族に持って行かれる」「金銭面のことで深く立ち入るのは、やめた方がよい」「経済的支援は逆にプレッシャーを与えたようだ。行政の福祉の働きに任せただ方がよい」「具体的

なサービスに関しては、需要があまり出て来ず、今一つ活発な動きにならないまま、コロナ禍で一旦動きが休止中」「認知症になり、被害妄想的になった時に関わりを持つことが裏目に出たことがある」

- ② 高齢者対象の諸集会の企画(5/29):「イベントへの誘い。自力で教会に来るのは難しい」「歌声喫茶」「イベントなどはあんまり効果的ではなかった」「敬老の日の全体でのお祝い(嫌がる方がおられる)」「年齢別の小グループへの参加が少なくなっている」
- ③ 献金の課題:「献金について、年金生活の中で献金の話題は高齢者にとっては負担に感じるようだった」
- ④ 会堂の音響設備:「FM ラジオからイヤホンで礼拝の音声聞けるようにしたが、利用者がほとんどいない」
- ⑤ 独居高齢者対応:「一人暮らしの方々のため NPO や教会の施設で共同生活できるケアハウスのようなものを検討したが、一人で暮らすことを好む人が多いので、自宅に訪問サポートするようにしている」
- ⑥ 高齢者奉仕の分担:一部の人に奉仕が偏っている時は、教会としてあまり良くなかったと思われます。
- ⑦ 特になし。わからない。(6/29)

分析とコメント

教会としてこれまで行なってきた高齢者対応であまり効果的でなかったこととしては、123教会中 29 と回答数が少ないので、一概にコメント出来ないと思われるが、経済面のことや生活支援のことなどは、関わりにバランスが必要となるだろう。関わり過ぎることなどが裏目に出る場合もある。また認知症への対応の配慮のために情報収集や学びが必要になると思われる。また、高齢者対応の奉仕が一部の人に偏り、負担感が増してしまうといったことも、今後教会が超高齢化に向かう中で留意し備えていかなければならないことだと考えられる。

VI. 高齢者対応のネットワークについて【18、19】

18. 教会の高齢者対応で、実際に問題に直面したときに相談できるところとして、どのようなネットワークがあると良いと思いますか。ご自由にお書きください。58件

- ① 地域行政の社会福祉サービスの利用 (23/58) : 「包括支援センター、民生委員、市役所福祉課、介護職員、隣人(一般)、病院(医院)」「ケアマネージャー、介護支援専門員など」「医師、看護師、弁護士、司法書士」「民生委員や地域の方々との繋がりをサポートする」「知患者、専門職の把握」「行政との関わりが必然なので、介護士、社会保険福祉士、行政書士等のネットワークがあると良い」「地域の福祉の働きとの連携が必要だと感じています」「19の設問にあるような、専門家を紹介してくれる窓口」「市役所福祉、包括支援センター、民生委員」「介護に関するネットワーク」「地域包括支援センター」「自治体の高齢者科や、社会福祉協議会、ケアマネージャー」「シニアホームやその他の介護関係者」「病院、ケアマネージャーなど」「専門家に相談できる窓口があったらよいと思います」「まずは公的サービスとつなげることが大切と考える」「Q&Aなどの相談先があるとよい(法的援助のことなど)」「社会福祉協議会に相談、具体的な問題は包括支援センターに相談」「(民生委員などを通して、高齢者の状態を事前に連絡)」「事を知っていて国制度をうまく使える、アドバイスをしてくれる、ネットワーク」「気軽に話せる福祉の専門家との繋がり」「包括支援、近隣の社会福祉施設とのネットワーク」「今のところ、福祉行政の窓口で十分だと感じています」「社会福祉協議会」「高齢者対応で、配慮すべき点や注意点などを共有できるネットワークがあると良いと思います、社協なども一つ」
- ② 教団内に高齢者対応窓口の設置要望 (10/58) : 「教団としての介護ネットワーク(電話で相談できる所)高齢者施設ができるといい」「教団の中に、相談出来る窓口があれば良いと思う」「福祉行政との連携手段や方法をアドバイスしてくれる窓口が教団にあると助かります、知らないことが多いので」「情報をストックして共有してくれるような教団の窓口」「教団内の情報共有のための掲示板」「教団で専門の方々に無料相談できる窓口を設けてほしい、具体的なアドバイスができる方がおられると安心、例えば、高齢者の困りごとを教会員が聞いて牧師夫妻に相談し、家族に連絡して、福祉法律の専門家に相談できる窓口」「他の教会がどのような工夫をされているのかを知る情報共有の場があると良い」「井上貴詞先生を中心とした同盟内の高齢者・障害者福祉ネットワークチームみたいなもの」「教団で気軽に専門的なことも相談できる窓口」「教団などにこのような高齢者の方々へのサポートについて相談できる窓口などがあると良い」
- ③ クリスチャンの社会福祉ネットワークづくり (5/58) : 「公的支援につなげるために、専門知識を持っている人が教会におられるといい」「医療福祉関係の教会員同士でネットワークを作り、具体的な活動が出来るように模索していく」「教会関係者の中にケアマネがいるといい」「クリスチャン専門職のネットワーク、そこに相談窓口を開設する」「クリスチャンのケアマネージャー組織があるとよい」
- ④ 教会の高齢者対応の情報共有 (4/58) : 「実際に高齢者対応を行っている教会とのネットワーク、具体的な事例を伺いたい」「大きな規模の教会の成功例を聞くことはあまり助けにならないと思います。むしろ宣教区レベルで身近な情報の共有が有益と考えます」「他教会での取り組みを学ぶ機会」
- ⑤ 緊急連絡網 (3/58) : 「電話連絡網、緊急連絡先。急に体の状態が悪くなったときなど、いつでも連絡できるように連絡先を教えている」「今のところ教会内(役員会)のネットワークを模索中」
- ⑥ 身寄りのない方の死後事務 (2/58) : 「成年後見制度を使用しないケースで、身寄りのない方が天に召された後の残りを処理することについて、制度や相談窓口などの道を知りたい」
- ⑦ 身近な人のネットワーク (2/58) : 「知り合い牧師、教会員、役場、町内会」「家族とのネットワーク」
- ⑧ 法的制度 : 「成年後見人」
- ⑨ 地域病院との連携 : 「地域の衣笠病院グループ(病院、ろうけん、ホーム)との連携、協力」
- ⑩ 感染症禍における介護施設等との関わり : 「コロナ禍で高齢者の方のいる施設への訪問に制限があるが、どんなかたちで関われる方法があるかの情報を知れるネットワーク」
- ⑪ その他 (3/58) : 「『高齢者対応』の定義が広すぎて答えかねます(宣教的な意味合い?生活課題への対応という意味合い?)が、生活課題の方だとすれば、地域でのネットワークが重要。たとえば地域包括支援

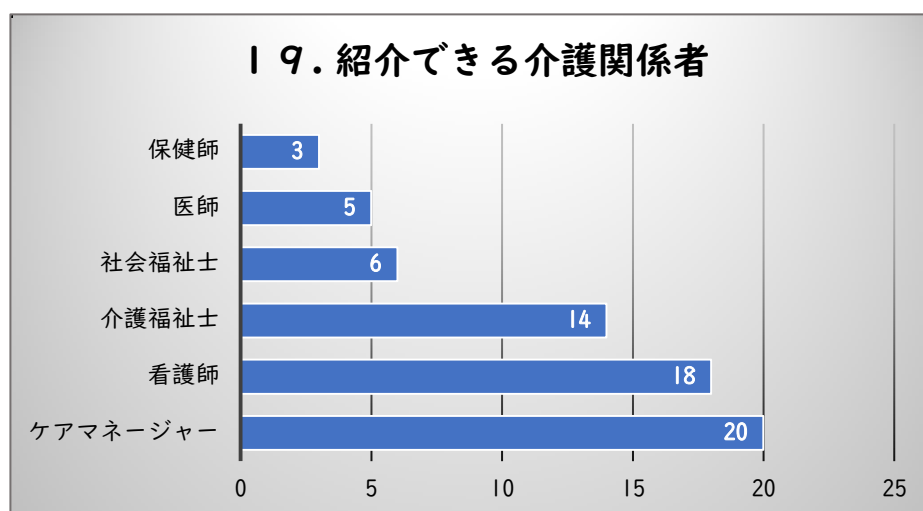
センターなどとの連携。宣教の方ならば、教会同士の交わり等あれば」「フォローできる人材養成や体制作り」「10番にあるような内容を、専門的に相談を受けるような窓口があると良い」

⑫ 特になし (3/58)：「特に思い出さない」「考えたことはありません」

分析とコメント

包括支援センター、民生委員、市役所福祉課、介護職員、病院(医院)、ケアマネージャー、介護支援専門員など、医師、看護師、弁護士、司法書士、社会保険福祉士、行政書士等のネットワークがあると良いと回答している教会は58回答中23回答あり、具体的に教団としての介護ネットワーク（電話で相談できる所）、情報共有の場があるといいと10教会が回答し、加えて医療福祉関係の教会員同士でネットワークを作り、具体的な活動が出来るようになって欲しいと考えているが5回答あり、クリスチャンの介護医療福祉ネットワークを必要としていることが窺われる。日常生活の中であってクリスチャンとして生きる高齢者の対応に教団と諸教会がより良いネットワークをつくり、超高齢化社会に対応していけるように備えていく必要性が必至となっていると思われる。

19. 介護関係者など相談窓口として人材を諸教会に紹介できる方がおられますか？ 46件
・部門：医療関係 ・介護関係 ・福祉関係 ・職種：医師 ・看護師 ・保健師 ・介護福祉士 ・ケアマネージャー ・社会福祉士 ・精神保健福祉士 ・その他



～その他～

ヘルパー／指導業務従事者／介護・看護職に従事している信徒（窓口や紹介は不明）／薬剤師
介護職員／管理栄養士／公認心理師／医科学博士・臨床心理士・公認心理士

分析とコメント

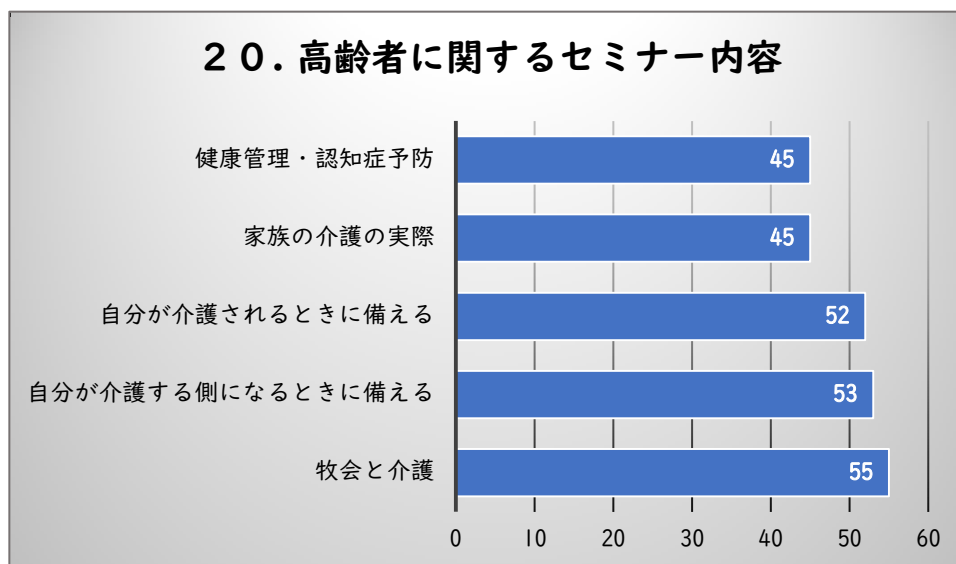
相談窓口として人材を諸教会に紹介できる介護関係者などとして「ケアマネージャー」20、「看護師」18、「介護福祉士」14、「社会福祉士」6、「医師」5、「保健師」3回答とあげられているが、実際に諸教会への紹介となると諸事情⁴で難しいものがあるようである。

⁴ 諸事情：「人材はいますが、紹介の目的がはっきりしていないので答えられません」「複数いるが、忙しすぎて公には紹介できない。個人的なつながりでないと」など。

VII. 意見【20、21】

20. 今後、家庭教育部では高齢者に関するセミナーなどを検討していますが、どのようなセミナー内容が良いでしょうか。良いと思われるものにチェックをつけてください。また、他のテーマがありましたら、お書きください。111件

- ・自分が介護されるときに備える
- ・自分が介護する側になるときに備える
- ・家族の介護の実際
- ・教会と介護
- ・健康管理
- ・認知症予防
- ・その他



～その他のテーマとして～

介護する人の心理的サポート／クリスチャンの終活／介護保険の活用について／教会との繋がりをどう伝えてあげるか、教会員高齢者への対応／葬儀の準備や心得について／具体的に実践している教会の実践報告／高齢者など、孤独になりやすい状況の人の慰め・励ましとなる講演やメッセージ／相続、成年後見人制度（独居の方々のため）／諸教会の高齢者対応の実際／教会がすべき基本的な事柄／介護保険に関する事など知っておけると良いと思う／現状を分かち合う場があると良い／高齢者向けの伝道／地域連携の教会／高齢者である牧師の引退時期（基準・客観的判断）

分析とコメント

今後の家庭教育部からの高齢者に関するセミナーの内容としては、「教会と介護」55、「自分が介護する側になるときに備える」53、「自分が介護されるときに備える」52回答あり、「教会と介護」というテーマが今後迎える超高齢化社会における教会のあり方を考える上では関心の高いところであることが窺われる。

21. その他ご意見などありましたらご自由にお書きください。34件

- ① 情報共有・意見交換 (5/34)：「実際に行っている教会の、良い例があったら教えて欲しい」「高齢者のための配慮やプログラムなど各教会の具体例があれば知りたい」「教会として高齢者対応をどこまですべきなのか、どこまで出来るのかを考え始めるにあたって、実際に対応されている教会の具体例等を伺える機会があると嬉しく思います」「兄弟愛や教会の宣教についてこの10年間実践しつつ学ぶことができました。他の教会や取り組みについて意見交換情報の場を求めます」「当該者を含めた、意見交換、情報共有ができることよい。高齢者ができることを励ましていきたい。高齢者からの相談やその対応については、

現状では好意から行われていると思います。具体的な対応をするには限界があるので、どのような選択肢があり、教会としてどのような対応をしていくことが良いのか、整理していくことが必要だと感じました。教会として相談できる場所があれば良いと思います。」

- ② 高齢者対応を考えるきっかけ (2/34)：「実際の問題として意識するきっかけになりました」「私たちの教会はそれぞれで対応しているように思います」「教会の能力としてもそれがふさわしい状態かと思います。アンケート自体、自分たちの教会の様子を顧み、チェックすべきポイントについて考えさせられるチャンスになりました。感謝しています」
- ③ 教会全体としての取り組みの必要性：「教会員の一人暮らしの高齢者（一人の婦人）をサポートしたことで、教会全体として取り組む必要を覚えた。それまでは、個人の生活をサポートするのは『行政の仕事だ』と言う人がいて、互いの生活に干渉しない教会であった」
- ④ 引退牧師対応：「引退牧師のサポートを充実させてほしい。高齢の信徒の方のケアも大切だと思いますが、高齢の先生方への対応も教団として仕組みを考えていってほしいと思います。各教会の経済的な格差が大きいので、安心して教会に仕えることができるようになったら良いと思います。」
- ⑤ アンケート内容の違和感：「アンケート内容が高齢者にとらわれていて違和感がある。障がい者の観点で統一したほうがよいのではないのか。」
- ⑥ 超高齢化対策の必要性：「牧師は団塊の世代で、数年後に75歳を越える。同じ年代層に他に3名いる。高齢化対策はこれから真剣に考えていく必要があると思っている」
- ⑦ 役員の任期：「役員は、70～80歳で、任期が終わると良いと思う」
- ⑧ 地域へのケアサービス提供の必要性：「当教会でも高齢者対応ということで15年前から取り組みを始めたのですが、当初、高齢の教会員及び、教会関係者とそのご家族を対象としていたため、ケアサービスよりも活動・活躍の場を求めるといった需要の方が高かったように思われます。もちろん、個別には必要のある方も出てきましたが、人数としては少なかったため、事業化には至らず、コロナ禍もあって全般に停滞してしまうという状況になってしまっています。今後の方向として、教会員ではなく地域を対象としたケアサービスの提供を考えていく必要があるかと思っております。教会員である高齢者の生活を支えるということなのか、地域に仕えて伝道の糸口とするのかで焦点はずいぶん変わってきます。また、事業（業務）と奉仕の線引きも難しくデリケートな部分ではあります」
- ⑨ 教団の経済的支援措置：「高齢者（教会員）の割合に応じた経済的支援や優遇制度（負担金を軽減するなど）」
- ⑩ 高齢者の表彰：「100歳を迎えた教会員（ある程度の信仰歴のある方を対象）を教団として表彰する（お祝いも含む）←行政はしている所あり」
- ⑪ 地域福祉行政との連携：「教会員のためだけでなく、近隣に住む高齢者のためにも何かあったとき迅速に対応できるように、教会として普段から地域の福祉施設や介護関係の施設を把握しておく」
- ⑫ 高齢者に配慮ある対応：「『新しい賛美や、なじみの無い訳による賛美に抵抗がある』『集会などの時間が長すぎると疲れてしまう』という意見が教会の高齢者からありました」
- ⑬ 地域の高齢者宣教：「未信者の方にも気軽に声をかけ参加してもらえるようにしてはどうでしょうか。もっと教会が門戸を広くすることが出来ればよいと思います」
- ⑭ 高齢者家族への支援：「高齢者自身への対応と、さらには高齢者を家族に持つ教会員への支援についても取り上げていただきたい」
- ⑮ 高齢者向け伝道テキスト：「伝道部の管轄かもしれませんが、高齢者向けの伝道テキストが早くほしい」

分析とコメント

高齢者のための配慮やプログラムなど実際に行っている教会の具体的な良い例があれば知りたい、他教会の取り組みについて意見交換情報の場を求めたいといった意見や、超高齢化社会に向かう中で、高齢者（教会員）の割合に応じた経済的支援や優遇制度（負担金軽減など）の要望や、高齢牧師への教団としてのサポートを考えて欲しいといった意見も出されていた。

【総括】

「年配の男の人を叱ってはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい。若い人には兄弟に対するように、年配の女の人には母親に対するように、若い女の人には姉妹に対するように、真に純粋な心で勧めなさい。…もしも親族、特に自分の家族の世話をしない人がいるなら、その人は信仰を否定しているのであって、不信者よりも劣っているのです。」

テモテへの手紙第一 5 章 1、2、8 節

厳しい表現に少したじろぎますが、高齢者対応や家族の介護は、初代教会にもあった課題と言えます。イエス・キリストの救いを受けて神の子とされるのに、年齢の区別はありません。老若男女の構成によって、まさに家族です。この年齢バランスが変化し、高齢者が増えているという現状をアンケートによって確認することができました。回答してくださった設問 1 の 75 歳以上率の平均は、25～30%（年齢幅のある設問回答の平均のため）となっています。日本社会の 75 歳以上 15.5%（「2022 年版総務省統計局」）であることを超えて、教会はまさに「超高齢」家族ということになります。

教会の規模の違いはあっても、ハード面でもソフト面でも、それぞれ高齢者に既に対応をしておられることがよくわかりました。高齢化の様々な課題に直面している兄弟姉妹に、愛をもって寄り添っている教会の姿に励まされました。それは高齢化の課題に限らない教会の姿勢でしょう。

「はじめに」でも記しましたが、各教会の取り組みが参考になります。家庭教育部のホームページでも教会の情報交換として紹介してゆきたいと思います。ないものを見てできないとすることなく、今あることを用いて取り組むヒントにさせていただきたいと思います。

今回は各家庭の介護までは踏み込むことは避け、教会の高齢者対応に絞りました。設問には含めませんでした。近年課題となっていることとして、ヤングケアラー問題があります。親の看護・介護をするヤングケアラー増加の原因は、一人親世帯の増加、晩婚化、共働き、核家族化、地域住民との関係性の希薄化だと言われています。家庭任せにできない課題となってきたため、教会としてヤングケアラーの子どもたちへの支援も考えていく必要を覚えています。

アンケートを通して高齢者対応の課題も知ることができたので、家庭教育部としてできることを検討しています。

(1) オンライン活用セミナー開催企画

教職者対象：「牧会と介護」

教会全体対象：「介護する時・される時への備え（介護の実際）」

「人生の黄昏への備え～人生会議をしよう～」2024 年 7 月 21 日（日）高齢者セミナー実施予定

「教会ができるフレイル(虚弱)予防～神の家族の居場所～」

(2) 介護福祉関係ネットワーク作り（血縁・地縁を超える「神の家族」である公同の教会）

介護は、福祉行政の助けを受けても、時間的な負担があります。家族の中で抱え込む傾向もあります。2021 年厚生労働省「雇用動向調査」によると、離職者年間約 717.31 万人のうち約 9.5 万人が家族の介護理由による離職でした。年代としては 55～59 歳が最も多く、離職す

ると経済的な問題が生じます。介護を終えても再雇用の見込みが少ない中、今度は自分の介護問題が生じるということになります。退職する前に、支援に対するアドバイスや支援体制があれば回避できることもあるのではないのでしょうか。様々な支援について、行政は質問すれば教えてくれるのですが、何をどこまで聞いていいのかわかりません。教会に介護や福祉関係者がいると、安心して支援を受けるための初歩的な相談をすることができます。しかし、教会に介護・福祉関係者が一人もいないという教会がありました。行政連携は地域によって事情は異なりますが、最初にクリスチャンの専門家からアドバイスを受けることができれば、家族にも、そしてその家族に寄り添う教会にも大きな助けとなります。

高齢者への対応を教会の中だけにとどまらず地域に広げる時、地域に根差す教会となることもわかりました。専門的なプログラムを用意できなくても、年に一度でも、高齢者に居場所を提供することができます。高齢者こそ早く福音を聞く必要があります。要望として挙げられていた「高齢者向け伝道テキスト」は、伝道部や教会教育部でも検討していただきたいと願っています。

私たちはもれなく齢を重ねる有限な存在です。「神の家族」として「キリストのからだ」として互いの存在を尊ぶ姿を通してキリストの弟子であることを証ししたいと思います。

※このアンケートをご覧になってのご意見・ご要望を家庭教育部までお寄せください。

Google フォーム

https://docs.google.com/forms/d/1hF5NpKwFPLlmZJrbLxw25g1mPeDrK1tqjwgr-bzcx_M/edit



家庭教育部ホームページをぜひご活用ください。

家庭教育部ホームページ



タイトル：家庭教育部 教会の高齢者対応についてのアンケート報告

実施日：2022年8月～2023年2月

表紙イラスト：登別中央福音教会 教会員 金子三郎

集計：日本同盟基督教団教育局家庭教育部 局長：畑中洋人、部長：丸山園子
部員：李もも子、菊池真恵美、高橋渉、廣岡拓朗、三浦峰人

発行：2024年6月